

96 亡くなった兵士の旗竿は、何故折れていないのか

《カステルフランコ祭壇画》・ジョルジョーネ

2024

真鍋友範



カステルフランコ祭壇画 1503-04 ジョルジョーネ

1 《テンペスタ》における兵士の持つ折れた旗竿



《テンペスタ》 ジョルジョーネ

《カステルフランコ祭壇画》の若い兵士（トゥツテオ）は、この絵画の依頼主の要望で描かれた被追悼者だ。

ウィキペディア・2024（引用）によると、以下の経緯があったようだ。

トゥツテオの若い息子マッテオ (Matteo Costanzo) はヴェネツィア軍で 50 の槍騎兵を指揮した。マッテオは 1498 年の冬にピサを支援するヴェネツィア軍に従軍したが、カセンティーノで起きたフィレンツェ軍との戦闘で負傷し、1499 年の初めにラヴェンナで、23 歳の若さで死去した。祭壇画はマッテオの死を悼んだ父トゥツテオの発注で制作された^{[3][4]}。この発注は祭壇画が設置された礼拝堂内部のフレスコ画を含む総合的な装飾の一部であったと考えられている^[3]。この礼拝堂は 1467 年に改築されたものを、トゥツテオが息子の死に際して取得したものである^{[4][5]}。

2 《テンペスタ》と《カステルフランコ祭壇画》兵士の相違点

《カステルフランコ祭壇画》に描かれている兵士は、闘って戦死した人物ではなく、戦争による負傷が原因で病死した人物だ。

一方、《テンペスタ》に描かれた兵士は、戦死する運命にあった兵士だ。

つまり、《カステルフランコ祭壇画》に描かれている兵士は、戦いによる戦地での直接の戦死者ではなかったことが、この、折れていない旗竿の表現につながったと推測されるのだ。